

収蔵文書調査報告書 3

上林三入家文書

はじめに

宇治市域に関わる近世史料いわゆる地方文書のなかで、もっとも個性的なものの一つに宇治茶師関係の古文書があります。一言に宇治茶師と申しましても、幕府行政に関与する者から上層の農民まで、また居住地も宇治郷に限定する場合や、周辺の村落の茶業家を含むことがあったりと、多様かつ多面的な構成と要素をもっております。

資料目録の第三冊目となります本報告書では、そうした宇治茶師関係のなかでも、一際異彩をはなっています上林三入家文書から、三星園上林三入本店に所蔵されます古文書を取り上げました。上林三入家は江戸幕府御用茶師の御物仲間に属しましたが、近代に入るとその文書は方々に散逸しながら、今日に遺りました。本目録は三入関係文書の一端を垣間みるとともに、宇治茶師の古文書をまとめた単位で整理し、取り上げる最初の作業でもあります。

身近な歴史資料と、どのように向かい合って取り組むべきか、まだまだ手探り、試みの状態にありますが、本報告書が、宇治茶師や宇治研究の一助となり、広く活用されることを期待しております。

目次

【解説】

由緒書と系図 3

三入関係文書の特徴 4

その後の三入家 29

明治時代の三入家 31

【目録】

上林三入家文書目録 70 (1)

凡例

- 一、本書は、当館に收藏する三星園上林三入本店文書（田中守氏蔵）に関する調査報告書である。
- 一、文書の整理実務と目録作成は小嶋正亮が行い、一覧を巻末から横組で収載した。前半の解説は坂本博司による。

一、書状を除く史料の読本と図版は、解説末尾に掲載し、【】内に通し番号を付した。

- 一、書状の読本は文面のあり様に添って、折紙の上下両面に及ぶ場合は二段に、尚書から本文行間に挿入される記載は宛名のあとに配することを原則としたが、余白の都合で一部例外がある。
- 一、解説中の「」内の数字は目録番号と一致する。

参考文献

『佐賀県史料集成』古文書編第二十二巻～二十四巻（昭和五十七・八
年）

『上林三入家文書』（平成五年 畠山記念館）

『大名と茶師』（平成五年 宇治市歴史資料館特別展図録）

「中村復也氏蔵 上林（藤村）三入宛書状」（平成五年度宇治市歴史資料館年報）

「宇治茶業界の風雲児―上林三入―」（平成七年 宇治文庫6 『宇治をめぐる人びと』所収 宇治市歴史資料館）

「三入宛書状の研究 その一―岡部氏の場合―」（平成六年度宇治市歴史資料館年報）

「三入宛書状の研究 その二―菅沼定芳・定昭父子と田中定官の場合―」（平成八年度宇治市歴史資料館年報）

「三入宛書状の研究 その三―本多康俊・俊次父子の場合―」（平成九年度宇治市歴史資料館年報）

